

喀痰塗抹検査陰性肺結核症例の臨床的検討

^{1,2}宇留賀公紀 ¹森口 修平 ¹高橋 由以 ¹小川 和雅
¹村瀬 享子 ¹花田 豪郎 ¹宮本 篤 ¹諸川 納早
^{1,2}岸 一馬

要旨：〔対象〕2006年1月から2011年10月の間に、喀痰塗抹検査陰性で、各種検体の培養、PCR、QFT検査で肺結核と診断された115例を対象とした。〔結果〕培養陽性率は、喀痰55.7%、胃液45.6%、気管支鏡73.2%、CTガイド下生検71.4%であった。多変量解析では、喀痰または胃液のPCR検査が陰性または未検査、病変の拡がり狭い症例で、喀痰と胃液の培養が陰性になる可能性が有意に高かった。〔結論〕喀痰の塗抹とPCR検査が陰性で拡がり狭い症例では、薬剤感受性検査に基づく適切な治療を行うために、気管支鏡検査などの侵襲的な検査を検討すべきである。

キーワード：結核菌，気管支鏡，喀痰塗抹検査陰性，多剤耐性結核